
俺たちの電波塔

思惟

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺たちの電波塔

【Nコード】

N9186A

【作者名】

思惟

【あらすじ】

夏休みの最後の日に遭遇した不思議なお話。

（前書き）

この作品は以前、友人と作った個人サイトで『俺らの電波塔』・ハ
ンドルネーム^{ケイ}景で載せていたものを少し書き直したものです。

……まあ……っ……て……る……よ……
必ず……来てくれるって……。

ああ、誰かが話しかけてくる。

何度も何度も誰かが俺をよんでる。

でも誰が俺なんかをよんでいるんだろう？

俺には特技もないし頭もよくない。

俺は何も出来ないのに……誰がこんな俺をよぶんだろう？

俺をよんだ誰かが泣いてる。

俺の手に水滴が落ちたから。

何が悲しいの？

それとも寂しいの？

声をだそうと、問い掛けようとするのに……俺の声はでない。

………違う、俺の首がか細い手によって絞められているから声が
出せない。

顔は見えない。

けど、美しい長髪の黒髪が俺の顔を撫でる。

か細い手、長髪、…多分俺の首を絞めてるのは女。

女は俺の首を震える手で絞めながら泣いている。

なあ、何がそんなに悲しいんだ？

俺は首を絞めている女を憐れに感じた。

震えながら首を絞める手。

涙を流しながら俺を殺す。

もちろん、俺だって苦しい。

… だけど不思議と首を絞められてる俺より女の方が苦渋に満ちているように見える。

俺は女の顔に手をのばし涙を拭ってやる。

女の手がゆるむ。

『泣くなよ』

心なしが女が笑ったように見える。

いや、微笑んでいる。

…その瞬間すさまじい爆音がなりだし、辺りがかすみ真っ暗になる。

ジリイイイイイイ〜ジリイイイイイイ〜

「あゝ!~!」

俺は跳び起きて目覚まし時計を止める。

「……………夢?」

ベットを見ると猫のシロが長くなって寝ている。

シロには俺の胸辺りで寝る習慣がある。

連日夏にしては寒い日が続いていた。

「シロ寒がりだからなあ」

そう呟きシロの首のした辺りを撫でる。

シロは気持ち良さそうにする。

それは俺が洗面所に言って首を見て青ざめる10分前の事だった。

俺たちはきつと様々なところで何かで繋がってる。

まるで電波塔のように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9186a/>

俺たちの電波塔

2010年11月25日17時26分発行